

本種との出会いは初めて沖縄を訪問した 1993 年 9 月に、名護半島の伊豆味でツマベニチョウとともに、その素早い飛翔に感心しながら眺めているが、映像記録がとりにくいチョウだ。

Sep. 3, 1993 : 沖縄名護市伊豆味

伊豆味の町に入ってから民家の庭に咲くランタナ花上に複数頭のカバマダラが遊んでおりしばらくはうっとり見とれてしまう。ツマベニチョウも民家周辺に咲くハイビスカスの花を次々と訪れており、あいかわらず新鮮な個体にしばって捕獲する。町というよりは集落という感じの風景が広がる中で、きれいに舗装された自動車道路に沿って流れる川の反対側には、見事に花を咲かせたハイビスカスの大きな垣根が畑の境界ごとに幾筋もあって、至るところでツマベニチョウやウスキシロチョウがいきいきと求蜜活動を展開している。筆者も楽しそうな宴の景色のなかに飛び込んでゆきたい衝動を覚えるが、ハイビスカスの垣根根元周辺一帯は深い叢となっており、ハブに遭遇する危険を考えて深追いは断念。

Sep. 29, 2005 : 石垣島バナナ公園

リュウキュウミスジ、ムラサキシジミ、アマミウラナミシジミ、タイワンクロボシシジミそれにヒメウラナミシジミなどが次々と姿を見せるなか、新鮮なアマミウラナミシジミだけをネットインして引き返す。その過程で往きの右手への注意力が足りなかったのか、気づかずに通り過ぎていた左手山側のコンロンカに、まぎれもなく中令以上で大き目のヤエヤマイチモンジの幼虫が複数頭いるのが目にとまる。このうち 2 頭ていどなら高砂に持ち帰って蛹まで育てられそうだ。周辺から飼育に足りそうな量のきれいで大きい葉っぱをつけたコンロンカを折り取って、さあこれで蝶探索は終わりにしてもいいかな、と車のところにもどる。ネットの伸縮棒を短くして片付けようとしたそのとき、新鮮度の高いウスキシロチョウがすぐ近くのセンダングサを訪れる。きわめて敏捷度の高いこのチョウも花蜜を求めるタイミングでなら容易にネットインの対象となる。さらに引き続いて上空から大きなツマベニチョウが舞い降りてくる。手にしているネットの色は赤ではなく緑なので、何をめがけてか、と注意すると、背が高いクサギがピンクを帯びた白い花をつけており、きれいなメスがその花の蜜を吸い始める。急ぎカメラの準備をするけれど、同じ花に長くとどまることがないツマベニチョウの習性のため、シャッターチャンスをつかめないうまま飛び去ってしまう。ずっと車の中にいた妻にきれいな自然界のツマベニチョウを見せてあげられなかったのが残念だ。

